乘客は薄氣味惡るく思つてゐた。
廣島驛で新吉は大きい聲でドナツた。
ダダダダダダイスト。
ダガバージマクワーウリ。
ダダダダダーダイスト。
人々は顧り返つて立ち止つた。
巡査が驅けつけた。
新吉は便所の窓から首を出してゐた。
『寸時降りたまへ』
巡査は手を出して言つた。
新吉はインバネスをオーバーの上へ着てゐる。
新吉は擦り硝子の扉を引き上げ樣とした。
巡査は新吉のインバネスの袖を掴んで、引き摺り下ろさうとする。